アートコミュニケーター × 自然観察会

河野智恵美（こうのちえみ）
（アートコミュニケーター）

2023年より自然観察指導員として活動する河野智恵美さんの職業は昆虫クラフト作家。「自然×アート×探求」をテーマとする活動主体の「Dear Bugs」を立ち上げ、幼児から大人までを対象とした昆虫クラフトワークショップや昆虫を通じたSDGs教室、保育園や学校と連携した探求プログラム作りを行う。

「私は息子が昆虫に興味を持つまで、昆虫が大の苦手でした。ですが、息子が教えてくれた昆虫の面白さやかっこよさに触れるうち、これまで知らなかった世界が一気に開けてきました。この経験から、昆虫へのイメージが『苦手』から始まる人にも昆虫の面白さに出合ってほしいという思いが生まれました」

子どもの興味の芽を大人の苦手意識でつぶしてしまわないように、大人向けの教室では本物の昆虫ではなくアートや色彩・デザインを入口に魅力を伝え、「嫌い」から「少し平気かも」へと気持ちが変わる場作りを意識しているという。

相通じるコミュニケーション

そんな河野さんのもう一つの顔はアートコミュニケーター。東京都美術館と東京藝術大学の共同プロジェクト『とびらプロジェクト』で、アートを介して誰もが参加できる対話の場を作り、異なる背景を持つ多様な人と人、人とものをつなぐ役割を務めている。

「アートコミュニケーターの仕事を『自然×アート×探求』をテーマにした自分の活動に落とし込む中で、自然をもっと深く理解して、昆虫という小さな存在から大きな生態系へのつながりを伝えたいという思いから、自然の見方を学び、同じ思いの仲間と出会いたいと考え、自然観察指導員講習会に申し込みました。講習会で学んだ『自然を一緒に感じ、気づきをシェアすることが本質』という考えは、私がアートコミュニケーターとして参加している『対話型鑑賞』とも通じます。作品を見ながら参加者同士が感じたことや気付いたことを言葉にして共有し、対話を通して理解を深める鑑賞です」

自然とアートはいずれも見る人によって受け取り方が異なるもの。多様な受け取り方を対話の中で共有していくことで、新たな疑問や探究心が湧き出してくるという。「子どもたちが自然や昆虫を通して自分で考え発見できる時間をデザインしたい」と語る河野さん。指導員講習会での学びや、自然観察指導員の仲間とのつながりが、アートコミュニケーターや昆虫クラフト作家としての活動に役立っている。

（左）プラバン立体昆虫標本のワークショップ。地域に実際に生息している昆虫を、プラバンを立体的に使って標本のように製作。（右）羽根の秘密を学びながら、昆虫の羽根を作って昆虫になりきるワークショップ

（上）保育士さん向けに開催した「昆虫嫌いなママさんのための昆虫教室」。（下）千葉市美術館ではワークショップパートナーとして活動。このほか河野さんの活動は「Dear Bugs」（https://www.dearbugs.com/）にて

DATA
講習会受講年▶2023年
活動の対象者▶昆虫が好きな人にも嫌いな人にも、子どもから大人まで
自然観察指導員として大切にしていること▶よく見ること、よく聞くこと、よく感じることを大切にしています。